

学校教育目標		社会を生き抜く自立した児童・生徒 ～やりぬく姿はかっこいいGRIT～ ○ 自ら考え、節度ある正しい行動のできる生徒（規律） ○ 将来に向かって希望や目標をもって前進する生徒（感動） ○ 思いやりの心をもって共感し、尊敬しあえる生徒（敬愛）					総合評価	
運 営 方 針		○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を身につけさせると共に、主体的に学ぶ意欲と態度を育てる。 ○人権が尊重される社会や地域を築く人間の育成を目指すとともに、生命に対する畏敬の念をもって、互いに信頼と協力を深める。 ○自然や伝統文化を大切にし、美しいもの・崇高なものに感動する豊かな情操を養う。 ○規律ある生活を重んじるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせ、たゆみなく自らを高めようとする意欲と実践力を養う。 ○健康・安全に留意し、活力ある生活ができる逞しい心身の育成に努める。 ○職場体験学習や修学旅行をはじめとする諸活動や行事を通じてキャリア教育を推進し、キャリアパスポートの充実を図る。 ○いじめを許さない態度を育てると共に、未然防止、早期発見、組織的な対応に努める。						
令和5年度の成果と課題 （○成果 ●課題）		本年度の重点目標		具 体 的 目 標				
【学習指導】 ○「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業を2回行い、指導案検討も小中合同で行うことができた。 ●学力に課題があり、家庭学習がなかなか定着しない生徒に対する取組をより一層進めていく必要がある。「すららドリル」を昨年以上に活用して、学力向上に努める。 【生徒指導・安全指導】 ○支援の必要な生徒について、小中が情報交換を密にしながら進めることができた。 ●危機管理という点で、あらゆる対応の訓練を計画し実行していかなければならない。 【道徳指導・特別活動】 ○月1度の専門委員会を行い、生徒発信で活動する機会ができ、主体性が育った。 ○生徒の実態や社会的な問題も踏まえ、授業内容を考え、生徒が自ら振り返り、課題意識や目標を持てるようにした。 ●12月のアンケートで、「地域が好き」と答えた生徒が60%だった。地域を愛する子どもの育成に努めなければならない。 ●具体的方策の部分に、数値目標を設定していく。		○確かな学力 ― 基盤的学力の習得 ―		学校行事等を精選したり、工夫したりすることによって、授業時間数を増やす。わかりやすい授業を実践する。また、学力定着のため、家庭学習の習慣を定着させる。				
		○豊かな心 ― 対人関係構築力の育成 ―		「読解力の向上」をめざし、小学校との合同の職員研修を進め、各教科の指導力の向上に努める。				
		○豊かな心 ― 対人関係構築力の育成 ―		地域行事に積極的に参加したり、地域の人々との交流を深めたりする中で地域の教育力を活用しながら、ふるさとを愛する生徒を育てる。				
		○健やかな体・安全 ― 体力の向上と健康意識の醸成 ―		「あいさつができる児童・生徒」を育てるとともに、対人関係構築力を育成する。				
				生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。				
				危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。				
評価項目	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果 （5段階評定）			成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学 習 指 導	確かな学力を身につけ、 進路を切り開くためにやり 抜く力を育てる。	タブレットの活用をはじめとして生徒がより深く学ぼうとする姿勢をすべての教科で促す。教師もICT機器の活用により生徒の理解を深められるようにする。そのことに対する生徒の認知度を85%以上にする。						
		基礎学力の定着を図るために、すららドリルの定着を見据えセレクトタイムを実施し、全校体制で取り組む。また、タブレットの活用により、学習意欲を向上させ、家庭学習を生徒自ら積極的にに行えるようにする。家庭学習時間ゼロを10%以下にする。						
		特別支援教育では生徒の実態に合わせて3教科において少人数クラスおよび5教科での個別ないしは2名の授業、4教科でのT.T.の活用により個別支援の充実を図っていく。道徳指導教室においても同様に生徒指導上配慮しながら週あたり2／3ないしは、1／4と2／4など現状において可能な限り個別支援の充実を図る。						
	小中一貫教育を進め、小 中間の連携強化のための 合同研修や共通の目標を 設定する。	「読解力の育成」を小中間共通の教育課題であるとし、小中併せて年間、2回、研究授業・協議を行う。また、NIE「読解タイム」を継続し、読解力向上を図る。生徒相互の理解のため発表会や掲示することから情報伝達にも重きを置く。今年度は新聞記事の作成を目指す。 小中合同で英語教育の強化に取り組み英検受検を奨励し全員合格を目指す。また、小中間の授業交流や学校行事の交流、および体験入学の充実を図る。						
生 徒 指 導 ・ 安全指導	生徒が安心して安全な学 校生活を送ることができる ようにする。	職員の危機管理意識を高め、校内での事故発生時の動きを研修などの機会を設け、確認する。今年度、地震に伴う火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。						
		生徒の規範意識を高める取り組みとして時間、校則を守るという意識を持たせる。欠席遅刻の人数を減らせるように指導を行う。						
	体力の向上と健康意識の 醸成に努める。	体育の授業を通じて多様な運動技能を身につけさせていく。保健の授業や保健だよりで生活習慣の改善について伝える。						
		SCやSSWの有効な活用を進め、個別のケース会議などを随時取り入れ、職員間で共有する。年間1回はスクリーニング会議を行う。						
特 別 活 動 ・ 道徳教育	集団や社会の形成者として 他者や地域とつながり、 共に自らも成長していく態 度を育てる。	学校行事や生徒会活動において、生徒発信で活動する機会を通して生徒の主体性を育てる。また、学校アンケートにおいて、「学校行事に積極的に取り組んでいるか」「委員会活動・係活動等に積極的に取り組んでいるか」を90%以上を目指す。						
		牧野小学校と合同で行う清掃活動を通して、地域の環境美化に貢献する。また、福祉体験や職業体験等を通じて地域の方とのつながりを持たせる。						
	特別の教科 道徳の授業 の充実と共に、実践できる 生徒を育てる。	道徳の授業で、意見や考えを多く出させ、学校アンケートにおいて、「友達の意見や話し合いから新しい発見や気づきがあったか」を75%以上、「自分の考えを深めることができたか」を80%以上を目指す。						
		体験活動の充実を図るとともに、体験活動と道徳の時間とを関連づけた指導を進める。						
働 き 方 改	個々の超過勤務時間をできる限り少なくしていく。	・業務支援員を効果的に活用し、少なくとも連続した複数月に80時間を越える超過勤務者を出さないようにする。						
次 年 度 へ の 成 果 課 題 と								